

# なごみ通信

第31号

発行日

平成29年

5月13日(土)

社会福祉法人

なごみかぜ

なごみかぜ工房

0538-45-2771



## おつかれさん会

三月二十四日、冬と春の風が入り混じる中、利用者さん、スタッフと共に、浜名湖近くの雄踏町へ、「おつかれさん会」の旅に行ってきました。二台のマイクロバスに分乗し、レッツゴー！



触ってみよ♡

外の景色をバスガイドさんの様に説明してくれる人、逆に静かに窓越しを眺めている人…。

まずは、「ウオット」

に到着。こじんまりとしたスペースの中にヤマメやアユなどの川魚、エイやタイなどの海の魚も数多く展示されていました。また、チョウザメやなまこ、ヒトデなど触ることができるコーナーでは、果敢にも挑戦している人もいました。

いよいよ待ちに待った

お昼。煮魚定食、とんかつ定食を心ゆくまで堪能。おなががいっぱいになり、足取りも軽くバスに乗り



レッツゴー！

込みました。

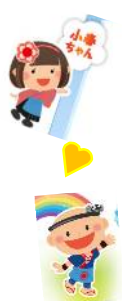
最後のお楽しみは、うなぎパイファクトリー。駐車場にまで漂ってくる香ばしい匂い。期待して建物内へ。うなぎパイの小さな生地がおなじみの形になる様子にびっくり。

二階からは、最新式の機械で焼きあがったうなぎパイが、手際よく包装され、箱詰めされています。



うなくん♡

く様子を見学できました。その後、お土産のブースに一直線。沢山のおみやげを手に、再びバスに乗り込みました。



工房に着いた後は、ボーナス支給式が待っていました。昨年より大幅アップのボーナスに、皆さん大喜びでした。

また、二名の方が一年間一日も休まずに出勤されて、施設長より、感謝状を授与されました。

皆さん、それぞれの作業室で一生涯懸命作業をがんばって下さいました。

「一年間、本当におつかれ様でした」と感謝する一日でした。



さかなにうっとり♡



うま〜♡

NEW

新販売所!

一月より、工房の利用者さんの滝浪史乃さんの紹介で、滝浪さんの母校である、「磐田中部小学校」と「磐田第一中学校」でパンの販売をさせて頂ける事になりました。末永くよろしくお願い致します！



ゆかネコちゃんについて

なごみかぜ工房のトレードマークは「ゆかネコちゃん」です。随分長く工房の顔となっていますが、今でも販売先等で、「ゆかネコちゃんって何?」「ゆかで寝そべっている感じのネコだからゆかネコちゃん?」などと訊かれる事があります。皆さん、このゆかネこちゃんとは一体何か、ご存知でしょうか。

このゆかネコちゃんをデザインしたのは、工房の利用者さんで名物娘、橋本有加さんです。だから「ゆかネコちゃん」なのです。ある日有加さんが描いていたイラストに目を止めた施設長が、工房のトレードマークに採用して、今に至るといふ訳です。

その頃有加さんが描いたいくつかの原画は、今も工房にあります。その内の一つが、工房の玄関に展示されています。工房にいらした際にはぜひご覧になってみて下さい。

このゆかネコちゃんをモチーフにした、かぼちゃあん入りゆかネコちゃんパンは、時々お店にお目見えしています。



ゆかネコちゃんパン



感謝状♡



NEW 新商品

### 「ちくわツナパン」百五十円



おいし〜よ♡

ツナマヨを詰め込んだちくわを一本丸ごと包み、とろけるチーズとパセリをトッピングしました。春の行楽にどうぞ。

ちくわメニユーをもう一つ。

### 「揚げちくわ」百四十円

マヨちくわを一本丸ごと包んで揚げ、青のりをトッピングしました。



たべて♡

### 「ハフ茶」二百円

ハブ（えびす草）を使ったお茶です。煎ってお作り下さい。一袋で三リットルできます。



作って♡

便秘、胃腸病、目の疲れや充血、腎臓病、口内炎、二日酔い、高血圧に効果があると言われています。

### 「移動ポケット」四百八十円

ベルトやウエストの所に付けられるポケットです。ポケットの無いパンツ、スカートにもポケットが出来てしまうという、優れモノです！ぜひどうぞ！



つかって♡

### 「しんぶんエコバッグ」零円(無料)



もらって♡

大場施設長が新聞紙で作ったエコバッグです。意外と丈夫？ちよつとした小物を入れるのにどうぞ。お店に置いてあるので、ご希望の方は一声お願いします。

## 働VIVIDUOUS

「沈黙」という映画を観てきました。

遠藤周作さんの小説が原作のハリウッド映画です。江戸初期におけるキリシタン迫害の物語です。

信念を貫くことの難しさ、絶対的に信じるものへの期待の有り様、生きるという意味……。たくさんのことを考えさせられる映画でした。いい映画でした。でも、とても重い映画でした。ひとつだけ気になる点がありました。

それは、「ハードワーク」という言葉が、字幕として「苦役」という言葉になっていたことです。

確かに長時間や能力・体力を超えて求められる労働等「苦しい」面はあります。

けれども、ワークと苦役が結びつくのには若干の違和感を覚えました。

労働は義務だといわれます。

障がいのある人たちにとって労働（働く）はどんな意味があるのでしょうか？

私は、障がいのある人たちが労働（働く）によって、経済的な自立に向かえることや、障がい重い人たちは地域社会と関係性ももてるという意味で、「働く」ことは権利であると考えています。

私たちは、働くことを保障することを基本的に据えていかなければいけないと考えています。

「なごみの日々。なごみかせ工房施設長のブログ」

より

## ♥ 新スタッフ



四月十三日より、新しいスタッフさんが皆さんと一緒に働いてくださっています。

名前は**近藤秀規**（ひでのり）さんです。

工房には、木、土曜日に見えてくださっています。小麦色の肌からこぼれる、さわやかな笑顔が印象的で、すでに数人のファンがおり、静かにその輪が拡大中です。

早く皆さんに溶け込もうと、ノート片手に動きまわっている姿。そこから誠実さが伝わってきます。

## 🎁 寄与品

- ジャム用苺（高橋美博さん）
  - デコポン（内藤和美さん）
  - 夏みかん（大石衛さん）
  - たまねぎ（榛葉南さん）
  - お菓子（匂坂文明さん）
  - お花（大場由美子さん）
  - ボタン電池（千葉諒介さん）
- たくさんの寄与品ありがとうございました。

## ボランティア通信



榛葉久恵さん

大石初女さん

ご協力ありがとうございました。

